

喜びの 夕ネまき 新聞

No.575

大内宿の紅葉〈福島県〉

会津城下と日光・今市を結ぶ下野街道(別名:会津西街道)にある宿場町。茅葺き屋根の民家が30軒以上も並ぶ姿は全国的にも珍しく、秋色の山々を借景とした町並みは江戸時代の賑わいを彷彿とさせます。

〈継承〉

アフリカで野球の普及を目指し孤軍奮闘された人のお話をお聞きしました。日本とは異なる文化や習慣の中で野球を普及させようとするのですが、用具を揃えたり大会に出場したりする費用も限られ、諦めかけたことも何度もあったようです。

しかし、その人の信念は揺るがず、日本の教育学者が提唱した生活習慣「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを徹底指導し、選手たちの「人間形成」に大きな影響を与えられました。練習を積み重ねて選手も上達し、着任した二年後には来日が叶い、日本のジュニアチームと対戦するまでに強くなり、そして礼儀正しく成長していきました。

私も思えば幼少のころ「時間は守りなさい」「整理整頓しなさい」「きちんとお礼をしなさい」と色々な場面で言われていました。国は違えど、この三つの習慣は大切なことだと思います。

その人がチームを退き日本からの指導者がいなくなった後、指導を受けた選手が指導者となり、規律正しいチーム作りを継承されていると聞いて感動しました。

このチーム作りを継承するには指導の中に熱い思いを注ぎ、指導を受ける選手も「なるほど、やってみよう」と心底思い、互いに影響を与え合うことが肝心です。

チームは一人ではなく、個々が集まりチームと成します。選手として一人ひとりが「技術」を磨き、チームとして一人ひとりが、周囲の環境や人に対して思いやりのある「心」を育んでいく大切さを学びました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



まるまる一本のねぎを箸がわりにして食べる大内宿の名物「ねぎそば」



静岡市
「おおさわ縁側カフェ」

お茶農家の 縁側に見つけた 週末のふるさと



より始まりました。

静岡駅から車で約1時間。清流として名高い安倍川に沿って山深い県道を北上すると、山間の急斜面に美しく並ぶ茶畑が見えてきます。静岡市葵区玉川地区・大沢。標高約340mにあり、全方向を霧深い山と茶畑に囲まれた全戸23世帯の小さな集落です。この静かな地が今、月に2回、なんと1日あたり数百人も人が集まってくることで注目を集めています。お目当ては、第2・4日曜日に開催される「縁側カフェ」。茶農家の縁側を開放して、訪れる人々に自家製のお茶と、各家手作りのお茶請けでおもてなしをする取り組みです。寒暖差の激しい大沢ならではのお茶のおいしさを知ってもらいたいという願いから、集落全ての家が一致団結する形で2013年

運営している大沢振興会会

長の内野昌樹さんは、当初を振り返ってこう言います。「最初は1日に2〜3人、お茶を好む年配のお客様が来てくれて、縁側でゆっくりと話をするようなイメージを持っていました。ところが、ふたを開けると意外なことに若いカップルや家族連れのお客様が多く、SNSなど口コミの力もあってあつと言う間に1日百人を軽く超えるまでに。しかも、東京や茨城、名古屋に大阪と全国からいらつしやるんです。びっくりしました」。

人気の理由は行けばすぐに分かります。それは、おばあちゃんの家に戻って来たかのような懐かしい心地良さがあるから。美しい山や川を眺めながら古民家の縁側に佇めば、不思議と心が落ち着きます。そして淹れたてのお茶と季節のものを使った手作りのおそっざい、何よりも迎えてくれるみなさんの温かな笑顔に誰もが心癒され

るのです。しかし内野さん曰く、元気になるのはお客様だけではないのだそう。「迎える住民もみるみる元気になりました。お客様が来ると思えば、お料理のアイデアを絞ったり軒先をきれいにしたりと、暮らして張りが出るし、普通なら盆と正月にしか会わないような親戚が手伝いに来てくれたりして、目に見えて活気がみなぎってきました。お客様とすっかり仲良くなつて、つなかりの輪が広がっていくなど、嬉しいこともいっぱいあります。先日、何度も通つてくれている若い女性から結婚の報告を受けました。これまで色々悩みを聞いていましたから、嬉しくて、親戚の叔父さんみたいな気持ちでしたよ」。

評判が評判を呼び、お客様の数も増えている縁側カフェですが、内野さんが心掛けてい

るのは、無理をしないことだそうです。堅苦しい決まりごとを作らず、参加もその日都合のつく

静岡市 幸せな食べ物 × 幸せな風景



霧深い山間で育った大沢のお茶は、味わい深く、香り高いのが特徴



お休み料300円。
お茶もお茶請けも
各家庭ごとの味



地元の人たちとの楽しい会話
こそ縁側カフェ一番のごちそう



家だけが開くという具合。「それでも大抵は10軒以上が開いているので、お客様をがっかりさせることもありませんし、声をかけ合つて助け合つるのが大沢らしさ。この活動は続けることに意味があると思うので、マイペースに続けていきたいですね」。

この大沢の人々の穏やかな空気感が、訪れる人をほっこりとした温かさで包んでくれるのでしょう。4年目を迎え、ますます人気を呼んでいる縁側カフェ。これからも多くの人を元気にしてくれそうです。

静岡おでんの作り方

一般的におでんと言えば、冬場に家族で鍋を囲んで食べるもの。しかし、静岡では少し違って、子ども達が駄菓子屋で小腹を満たすためにほおぼるなど、夏でも冬でもおやつ感覚で親しまれています。濃い色のおでんつゆと串に刺された具材、そして最後にけずり粉をかけていただくのが特徴です。



材料 (3~4人前)

水	1ℓ
昆布	20cm
牛すじ	200g
醤油(下味用)	大さじ1
お好みの具材	
※静岡おでんの名物「黒はんぺん」はつみれ団子などで代用できる	
けずり粉	
※いわし粉やかつお節粉など	
おでんつゆ	
砂糖	大さじ1
酒	大さじ1
みりん	大さじ1
塩	少々
顆粒だし	少々
醤油	大さじ2

1 水1ℓに昆布約20cmを二晩浸し、出汁をとっておく。牛すじ200gを水洗いし、ひたひたの水に醤油大さじ1を入れて灰汁をとりながら下ゆりする。

2 牛すじの赤味が消えたらざるに上げて一口大に切り、串に刺す。この時、食感を考えながら、さまざまな部位を交えて刺すしよい。ゆで汁はおでんつゆに使うので置いておく。

3 お好みの具材に串を刺す。大根とじゃがいもは事前に蒸かし、冷ましておく。①で出汁をとるために一晩浸けておいた昆布も、具材として串を刺す。

4 ①の出汁に砂糖・酒・みりん各大さじ1と、塩・顆粒だし各少々、醤油大さじ2、そして②で残しておいた牛すじのゆで汁200ccを加え、具材を入れて火にかける。

5 味がしみこむまで弱火で約2時間煮込む。食べる時には、けずり粉をかけ、お好みで青のりや洋がらしを付ける。



静岡おでんの会 会長
海野 秀樹 さん

居酒屋「あさひ」の三代目。静岡っ子のソウルフード・静岡おでんを後世に残そうと、「静岡おでんの会」のイベントや料理教室など意欲的に活動している



郷愁を覚える季節。故郷へ帰りたいたいという気持ちはどこから湧いてくるのでしょうか。最近、二人のお子さまご家族と一緒に暮らしはじめたという坂井より子さんに、家と家族について伺いました。



約35年前の坂井さんご一家。葉山のご自宅の庭にて

第三話

家族が
帰りたくなる家

ふたつの『いいにおい』

実りの秋。おいしいそうな食材が並ぶと、献立を考えるのも一段と楽しくなります。そして食卓が賑わえば、それを囲むみんなも笑顔になれる。「おいしい」とか「いいにおい」というのはそれだけで人を幸せにしてくれますよね。幸せがいつぱい感じられる家。それが家族が帰りたくなる家ではないでしょうか。

私には娘と息子が一人ずついて、すでにそれぞれ家庭を持って、実りの秋。おいしいそうな食材が並ぶと、献立を考えるのも一段と楽しくなります。そして食卓が賑わえば、それを囲むみんなも笑顔になれる。「おいしい」とか「いいにおい」というのはそれだけで人を幸せにしてくれますよね。幸せがいつぱい感じられる家。それが家族が帰りたくなる家ではないでしょうか。

誰よりも知っていますから笑って許していました。お話会などで若いお母さん達が子育てについて不安を口にされた時は、いつもこの話をしてあげます。元は人から教わったことでしたが、自分なりに経験を重ねてきて、自信を持ってお伝えできると実感しているんです。

心地良いということ

私たち夫婦が子育てを始めた葉山の中古住宅は、大きくはないけれど四季を感じられる庭があつてとても落ち着く家でした。子ども達は学校から戻ると、なぜか子ども部屋ではなくリビングで宿題をするのが日課になっていましたね。当時はそれがなぜかなどとは考えませんでした。今思うと、居心地が良かったからだろうと思います。

単純に子ども部屋より広かったからという理由もありますが、それ以上に必要な道具がいつも同じ場所に片付けられていて、テーブルの上には何も無いという状況だから宿題もはかどったのでしょう。また、家族に見守られているという安心感の中でマイペースに進められるのも心地良かったのだと思います。

家事に心を込める

料理に始まり、掃除・片付け、布団干しや洗濯。家事は、家の中に居心地の良さをつくり、五感で感じるシンプルな幸せを生み出す作業です。これらのシンプルなお作業が、子ども達を素直に育ててくれたような気がします。家事に心を込めれば自然と家族の心は満たされ、帰りたくなる家になるのではないのでしょうか。

数年前に娘も息子も再び葉山へ帰ってきました。そしてこの秋、慣れ親しんだあの家を3世帯で暮らせる形に生まれ変わらせ、娘家族と息子家族、そして私たち夫婦の合計9人でひとつ屋根の下に暮らしはじめています。今度は祖母として、孫達にシンプルなお幸せを届けたいと思っています。



今日の夕飯はキャベツとチキンのグラタン(写真上)坂井さんが台所仕事をしています。3人のお孫さんがやってきてつまみ食いをするもしばしば(写真下)



3人のお孫さんは現在小学生。坂井さん手作りのおやつを囲んで今日の出来事を報告し合うのだそう

坂井より子さん

1946年生まれ。料理研究家。神奈川県葉山町在住。自宅で料理教室を主宰する傍ら、子育てママとのお話会や親子教室を開催。著書「受け継ぐ暮らしより子式・四季を楽しむ家しごと」(技術評論社)が人気書に。やさしい家庭料理と温かな人柄で幅広い年代から支持を集めている。



晩秋の楽しみ

香川県綾川町 野口喜美子さん

毎年晩秋になると、わが家の庭にたくさんのお虫が現れます。秋風に吹かれてぶらぶらりと揺れる様子は、それなりに風情があります。

孫が遊びに来る前日には、そのお虫の着せ替えをします。少しかわいそうだけど、蓑から取り出した幼虫を、短く切った色とりどりの毛糸のそばに置いておくと…。

翌日にはとってもカラフルな衣をまとった、お虫にヘンシン！孫は、この色とりどりの毛糸を蓑にしたカラフルなお虫が大好きなんです。お虫ちゃん、いつもごめんね。でも、色鮮やかな蓑がよく似合っています。

★お孫さんにはカラフルで素敵な思い出になりますね。



再会

大阪府東大阪市 中沢孝世さん

6歳の孫が眼の手術のために入院した時のこと。手術の前日、病院の前にある公園で若いお母さんに連れられた3歳くらいの坊やと出会い、一緒に楽しい時間を過ごしたようでした。

手術当日は、麻酔が切れると吐き気と眼の痛みで孫はかなり辛そうでしたが、夕方には少し落ち着き、窓から片方の眼で公園を見て「あの子、遊んでいるかなあ？」と探していました。すると、前日の母子が病院の前に、どうやら保育園のお迎えの帰りに寄ってくれたようでした。

その時の孫の笑顔ときたら！手術後の辛さが吹っ飛んだようでした。家族一同、感動です。素敵なお母さん、ありがとうございます。

★あたたかい優しさは、傷も心も癒してくれますね。



小さな封筒

佐賀県小城市 江口昭代さん

大学生の孫が、休暇で母親と訪ねて来た時のこと。仏様にお参りした後、私に小さな封筒を渡してくれました。聞けば、アルバイトで初めてお金をいただいたとかで、「おばあちゃん、少ししか入ってないけどお小遣い…」とちよつと照れたように言いました。私は嬉しくてウルウルと涙が流れました。

この孫は、以前の『喜びのタネまき新聞』に「ごくらく」の題で載せていただいた、当時4歳だった男の子。私と一緒に風呂に入り、あふれるお湯にどっぷり浸かって「アーごくらく、ごくらく」と言っていた孫の大きくなった姿なのです。大きくなっても彼のやさしさはそのまま、とてもうれしい日になりました。

★頼もしく成長した姿に、喜びもひとしおですね。

燈々無尽

信頼される人になれ

人間として大事なことは、信頼をされるような人物になることであり、

またひとたび信頼を得たならば、それにふさわしいだけの行ないを以て信頼にこたえるべきだと思います。

それこそ、生きがい、働きがいのある

人生ではないでしょうか？

鈴木清一



ヤリげないひと言

千葉県原市 岡崎薫さん

田舎で法事があり、東北新幹線に乗った時のことです。

私の座席の隣は空いておりましたが、途中から私より少し年上の女性に乗ってこられました。そして、「よろしいですか？」と声をかけて座られたのです。その方は2駅乗ると、「失礼しました」と会釈して降りていかれました。

ただそれだけのことなのですが、そのさりげないひと言がとても心地良く、強く印象に残りました。「素敵な人だったな」「私もそうありたいな」と思いながら、降車駅まで列車に揺られておりました。

★他人を思いやる気持ちで、やっぱり大切ですね。



エコライフ

群馬県藤岡市 小野里千登勢さん

19歳の娘が運転免許を取得し、短大まで車で通うことに。23歳の息子も神奈川から群馬に戻り、移動手段は車になったため、わが家にある2台の車は子どもたちのもとへ。

車を購入すると何かと維持費がかかるもの。子どもにもお金がかかるし…。そこで思いついた！高校を卒業した娘の自転車を買って空いている。うだ！私が自転車通勤すればいいんだ。

山間部で育ち、子どものころから自転車に縁のなかった私が、49歳にして自転車デビュー。いろいろな道を発見したりと、楽しみながら通勤している。まさかの展開だったがエコライフは結構楽しく、これからも続けられそう。

★健康のためにも、自転車はいい運動になりますよ。



ゆるゆるもゆる

三重県鈴鹿市 樋口まさ子さん

ある朝起きたら、家族の行事を書き込んでおく連絡用の白板に、娘の「ゆで卵、あります」という伝言が書いてありました。早起きの私はいつも先に食事をするので、さっそく冷蔵庫を開けてゆで卵を取り出しました。

すると、なんとまあ、卵の殻に「へへのもへの」と描いてあったのです。思わず笑いがこみあげて、ゆで卵も特別においしくいただきました。

ゆで卵のほかにも、娘は常に私を気遣ってくれて、いつも早く寝る私のために「見たら喜ぶだろうな」というテレビ番組を録画してくれています。ありがたいなと思いつつ、昼間ゆっくりと見せてもらっています。

★ユーモアとやさしさにあふれる娘さんですね。

愛の輪からのレター

みんなと一緒に、私たちができること。

10



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

夢への第一歩。

海外研修派遣事業は、障がいのある方にとって夢への第一歩。今年度は、自分でテーマや研修国を決める「個人研修」、マサチューセッツ州立大学ポストン校で障がい者リーダー研修をする「スタディ・イン・アメリカ研修」、そして今年初めて実施される「障害者権利条約の国内実施に取り組みたい人を対象とした「ミドルグループ研修」の3つの研修を行います。応募締切は11月15日。障がいのある方のご応募をお待ちしています。



このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎ 06-6821-5270 <http://www.ainowa.jp/>

あなたのお便りや写真を
お寄せください。

みなさまからお寄せいただいた
お話をもとに新聞をつくってまいります。
どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いて
もらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、
現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
紙面やホームページでご紹介させていただいた
原稿や写真にはお礼をさせていただきます。



兵庫県丹波市
足立喜美代さん

福島県二本松市
大内亜里沙さん

千葉県茂原市
松壽久子さん



みてもらおう!

見てうれし、見せてうれし。
あなたのお気に入りの1枚を送ってください。



広島市東区
富永久史さん

愛媛県宇和島市
河野えりなさん



No.419からのバックナンバーが
下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



お得な情報満載!
LINE@は
もう登録しましたか!?

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします!
ぜひ友だち追加
してみてくださいね!

LINE紹介
ページへ
アクセス!!



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報の取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター
0120-100100 www.duskin.co.jp